



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No. 297

2017(平成29)年2月11日(土)発行 こぶし(辛夷)



シンボルマーク
シールになっています

■ **「はらまち九条の会」** とは、戦争放棄の憲法第9条を護って「戦争をしない国・日本」をめざし、支持政党や主義主張を問わない自由な市民の会です。どなたでも、どこに住んでおられようと会員になれます。何の拘束もなく、お気軽にご加入ください。■ 結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に423名。年会費千円。■ 3.11の大震災後、「事故の福島第一核発電所(原発)に世界一近い南相馬市の“九条の会”」を自覚し、「日本国憲法の間接的起草者の憲法学者鈴木安蔵のふるさと」を誇りに活動しています。

○ 5月3日(水) 憲法記念日 復興を願い小高区で開催! 憲法施行から70周年記念行事 ○

主催: はらまち九条の会

立正大学法学部教授
(憲法学・政治学)

会場: 南相馬市小高区・浮舟文化会館

時間: 5月3日(水)午後1時~2時30分

立正大学名誉教授 **金子 勝氏の講演会**

○ 憲法学者の金子 勝氏は、現憲法の間接的起草者の鈴木安蔵に師事

本会総会では2度目のご講演。自民党の改憲草案についてのお話です。金子 勝氏



主催: 『日本の青空』を南相馬で上映する会 後援: 南相馬市 協賛: はらまち九条の会

時間: 5月3日(水)午後3時~5時 映画「日本の青空」上映会

日本の青空
大澤 豊 監督作品



◆ 小高区出身の憲法学者鈴木安蔵は、終戦直後民間の「憲法研究会」の中心人物として現在の憲法草案を作成し、憲法の間接的起草者と言えます。ですから、「小高区は日本国憲法のふるさと」です。◆ 『日本の青空』は鈴木安蔵を主人公に、憲法の成立過程を描いた2006年製作・大澤豊監督の映画。◆ 南相馬市では、2007年3月小高で試写会、4月小高と原町で上映会を開催し、今回でもう、4回目の上映会です。◆ 会員だけでなく一般市民の方の入場大歓迎です。

○ 5月1日(月) 3日憲法記念日を前に 全市新聞に、「憲法9条を守ろう」のチラシを折り込みます。

○ 6月18日(日) はらまち九条の会総会・DVD上映会・憲法学習会

いろいろ語りあいましょう! 会場: 原町区 南相馬市中央図書館マルチメディアホール

講演会も上映会も会場は小高浮舟文化会館・どなたも入場無料



ご覧になりましたか 反核兵器・脱原発の映画

■もう地方の町で映画を見ることは難しくなっていますが、あの『ゴジラ』以来、放射能を恐れたり、核兵器の廃絶、脱原発の映画が数多く製作され、特に原発事故以後注目を集めています。■「反核・脱原発」のほんの一部の映画紹介です。

○震災・原発事故前の予告的映画○

□監督：本多猪四郎『ゴジラ』（1954年11月3日）
水爆実験で目覚め、東京を破壊する反核映画。続編の『ゴジラの逆襲』からシリーズ29作目が昨年の『シン・ゴジラ』（監督：庵野秀明）。

□監督：亀井文夫『世界は恐怖する』（1957・昭和32年・80分） 死の灰の正体
南相馬市原町区本町出身の亀井文夫は、ドキュメンタリー映画の先駆的監督。（岩波新書・亀井文夫著『たたかう映画』参照）60年前の作品で、原水爆の放射能や死の灰の恐怖を徳川夢声のナレーションで赤裸々に訴える作品。福島原発事故後に再び注目されています。

□監督：黒澤明・本多猪四郎『夢』（1990年公開・119分） 出演：寺尾 聰・倍賞美津子・原田美枝子、音楽：池辺晋一郎
黒澤明が見た夢を元に、8話のオムニバス映画。福島原発事故の予告と話題になりました。

「赤富士」原発6基が爆発し富士山が炎に包まれ、疲れ切った女性と子供が座り込み泣いている。男は懺悔の言葉を残して海に身を投げる。

「鬼哭」世界は放射能汚染で荒野と化し、動植物はおどろおどろしい姿に、人間は1本角の鬼になって苦しんでいる。背の高さに巨大化したタンポポが登場するが、編者は2015年6月に飯館村で巨大タンポポや、2mのニンニクの花を現実に見ていて、胆を冷やしています。

□監督：山川 元『東京原発』（2004年・110分）
出演：役所広司・段田安則・岸部一徳・平田 満。東京都知事が東京に原発を誘致すると発表しパニックになるブラック・ユーモアのコメディ。国・政府の言うように、そんなに安全なら東京にこそ原発を建設するべきでした。

●震災・原発事故後の告発映画●

■『相馬看花 とうまかんか 奪われた土地の記憶』（2011年・109分） 監督：松林要樹。事故原発から20キロ圏内の南相馬市原町区江井地区の避難区域住民の混乱や苦悩の様子を追った記録映像。

■『フタバから遠く離れて』（2012年・96分）
監督：船橋 淳 音楽：坂本龍一。双葉町民の埼玉県加須市への集団移住の記録映像。続編も。

■『放射線を浴びた X 年後』（2012年・83分） 監督：伊東英朗。1954年3月ビキニ島の水爆実験による第五福龍丸以外の「被ばく」は米国との取引で消されてしまうが、現実には…

■『渡されたボタン さよなら原発』（13年・120分） 原発建設を撤回させた新潟県巻町（現新潟市）の実話の映画化。『日本の青空』から3作目。

■『小さき声のカノン』（2014年・119分）
監督：鎌仲ひとみ。二本松市の母親たちの葛藤。

■『日本と原発(4年後)』（2014年・138分）
監督製作：河合弘之弁護士。昨年10月のはらまち九条の会総会でも上映しました。原発の不条理を訴え告発する、私たち被災民必見の映画です。

■『遺言 原発さえなければ』（2015年・225分）
監督・撮影：豊田直巳・野村雅也。3.11震災翌日から13年4月までの被災地の長編記録。

■『飯館村の母ちゃんたち 土とともに』（2016年・95分） 監督・撮影：古居みずえ。

伊達市の仮設住宅で避難生活を送る飯館村の主婦二人・菅野榮子・菅野芳子さんの記録映像。

■『フクシマ・モナムール』（2016年・108分）
福島を訪れたドイツ女性と仮設住宅の女性（桃井かおり）の交流を描く。南相馬で初公開された。

■『太陽の蓋(ふた)』（2016年・130分）
監督：佐藤太 出演：三田村邦彦・北村有起哉
3.11大震災から5日間の、原発事故対応の政権や官邸の混乱ぶりが実名で再現のドラマ。

■『チャルカ』（2016年・90分） 監督：島田 恵
福島と六ヶ所村の放射性廃棄物のゴミ問題を。

■『大地を受け継ぐ』（2016年） 監督：井上淳一。須賀川市の自死したキャベツ農民の家族は。

■『奪われた村』（2016年・64分） 監督：豊田直巳。避難5年目の飯館村の哀しみと抵抗と。

■『新地町の漁師たち』（2017年） 監督：山田徹。震災後3年半の新地町釣師浜の映像記録。

■『残されし大地』（2017年・76分） 監督：シル・ローラン。2015年に富岡町や南相馬市で撮影したドキュメンタリー。監督は母国ベルギーに戻り、2016年3月22日地下鉄テロで死去。夫人鶴戸玲子さんが公開に努めています。